

宇都宮短期大学創立者 須賀友正先生が遺されたもの

須賀友正先生は、須賀学園が誕生した翌年の1901年のお生まれです。現在の東京工業大学を卒業後、日本のトップ商社であった高田商会に勤務され、ドイツ赴任の直前に関東大震災に遭遇しました。それを機に、県立宇都宮工業学校に招聘され宇都宮に戻られました。

1934年須賀学園の創立者須賀栄子先生の急逝により、33歳の若さで第2代校長に就任し、1945年の宇都宮大空襲で校舎が全焼後も苦難を乗り越えて、学校を立派に復興されました。戦後の激動の時代に確固たる教育理念のもと、栃木県私立中学高等学校連合会長、栃木県公安委員長など多くの公職も歴任し、その功績は藍綬褒章や勲三等瑞宝章の叙勲で称えられ、1982年に80歳で逝去されたのち、勲三等旭日中綬章も授与されました。

友正先生は無類の音楽好きで、宇工勤務時代には創立5周年にあたり校歌を作曲し、式典のピアノ伴奏も自ら担当されました。奥さまの華子先生のお箏との二重奏は、



仲睦まじいお姿と共に今でも学園に伝わり、須賀学園教育会館の校史室には友正先生遺愛の1900年製アップライトピアノが、若き弾き手を待っています。現在、長坂キャンパスと附属中学・高校には100台のピアノが備わり、双方の大ホールには世界の名器スタインウェイとベーゼンドルファのフルコンが各種の演奏会や学生生徒の発表に活用されています。



須賀友正記念ホール

一方、友正校長はスポーツにも並々ならぬ関心を持たれて、終戦直後の1946年にはアメリカから紹介されたばかりのソフトボールをクラブ活動にいち早くとり入れました。試合にはチームと共に全国各地に行き、ある時はボールを拾い、宿舍や食事の手配まで全力で応援をされました。現理事長 須賀淳先生との二人三脚の熱意で、関東大会をはじめ、高校総体、国民体育大会に全国優勝をして、ついに1958年には三大会制覇の栄誉（トリプルクラウン賞）を獲得しました。今年、竣工した硬式野球場にも、目を細めていらっしゃるでしょう。



創立者 須賀友正先生



1958年全国優勝して帰校



2017年竣工の硬式野球場



友正校長先生と華子先生



いつでも笑顔で挨拶する友正校長先生

友正先生の文武両道の人間教育を貫いた精神は、昭和から平成の激動の時代を映し、須賀学園の発展と長坂キャンパス創設への歴史を語っています。（宇都宮短期大学 副学長・教授 中川英子）

Index

page1~2 学長あいさつ
創立者 須賀友正先生が遺されたもの

page3~4 理事長インタビュー

page5~8 写真で振り返る長坂キャンパスの歩み

50th Anniversary

page9~10 長坂キャンパスの「過去・現在・未来！」
教員／卒業生からのメッセージ

page11~12 活躍する卒業生

page13~14 長坂キャンパス50年